

(様式2)

県立高校指定校事業（令和4年度指定）単年度計画書

学 校 名	相模原総合高等学校 (㊤・定・通)	校 長 名	小松 巖
指定名	プログラミング教育研究推進校	年 度	令和4年
研究主題	プログラミング教育によって生徒の確かな論理的思考力の定着、協働的問題解決能力の育成を図る。プログラミング教育の実践を通じて指導内容や評価方法等を研究開発し、その成果の普及を図る。		
本年度の研究内容	<p>(1) 本年度の目標</p> <p>プログラミング教育の5つの視点のうち特に「ベストな方法かどうかを分析する」の目標達成に向けて、振り返りを意識しつつ段階を踏んだわかりやすい授業の研究に取り組む。</p> <p>(2) 目標実現のための具体的な手立て</p> <p>①「発展プログラミング」及び情報科の学校設定科目の授業研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・毎時間の授業において、振り返りを行うことで自己の取組を分析させるとともに、自ら改善しようとする態度を定着させる。・「発展プログラミング」の全単元においてプログラミング教育の5つの視点を意識して授業を行う。・「発展プログラミング」において Python 言語を使った問題解決学習の授業計画・授業内容を研究する。・情報科の学校設定科目における実習の授業展開や学習活動の流れを明確にし、自らプログラミング教育の視点を留意して活用できるようにする。・「ロボット制御入門」では、神奈川工科大学と連携し、LEGO マインドストームを用いてプログラミングを学習する。 <p>②プログラミング教育の5つの視点を意識した全教科での授業推進</p> <ul style="list-style-type: none">・ねらい（ゴール）の明示や ICT の活用等を通じて、授業展開を工夫した授業実践を行う。・ICT の活用に関する校内研修を行う。・各教室黒板上部にプログラミング教育の視点として「ベストな方法かどうかを分析する」の目標を掲示し、生徒が毎時間の授業において、振り返りを行うことで自己の取組を分析させるとともに、自ら改善しようとする態度を定着させる。 <p>※本校の「プログラミング教育の5つの視点」</p> <ul style="list-style-type: none">①抽象化する ②物事を分解して理解する ③やるべきことを順序立てて考える④ベストな方法かどうかを分析する ⑤方法をほかに置き換えて一般化する <p>(3) 成果の検証方法及び成果指標</p> <ul style="list-style-type: none">・年度初めおよび年度末にプログラミング教育に関する生徒アンケートを実施し、データの収集・分析を行う。その上で成果を検証し、次年度以降の研究開発に役立てる。・生徒による授業評価により、「プログラミング教育の視点を意識して授業に取り組めたか」、また「プログラミング教育の視点が身についたか」を測る。・プログラミング教育に関する研究授業・研究協議会・学習成果発表会（生徒）・研究成果発表会（教員）を実施する。		
その他特記事項	県立高校教育力向上推進事業 Ver. II 「シチズンシップ教育」指定（平成 25～27 年度） 県立高校改革 I 期指定事業「プログラミング教育研究推進校」指定（平成 28～30 年度） 国立教育政策研究所実践研究協力校事業に係る協力校（共通教科情報）指定（平成 30～31 年度） 国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業（共通教科情報）指定（令和 2～3 年度） 県立高校改革 II 期指定事業「プログラミング教育研究推進校」指定（平成 31～令和 3 年度）		